



特 243
134

資料第三六四號
昭和十九年一月

ア
ル
ウ
諸島面積人口表

財団法人 南洋經濟研究所



始



特243
134

はし が き
本資料は篠田久万太氏に委嘱して編纂したものである。尙南洋資料中面積及人口に関するものは左の通りである。

昭和十九年一月六日

財団法人 南洋 經濟 研究所

關係南洋資料

資料番號	表 題
一八一	南方各地方面積人口概表
一八三	フィリッピン面積人口表
二二六	太平洋諸島面積人口表
二二七	ジャワ面積人口表
二二九	スマトラ面積人口表
二三〇	スマトラに於ける高度と人口密度との關係
二三二	ボルネオ面積人口表
二三七	セレベス面積人口表
三五〇	ニウギニア面積人口表
三六四	アルウ諸島面積人口表
三六五	スマータ諸島面積人口表
三六六	ソモモン諸島面積人口表

目 次

一、ア	ルウ諸島	Aroe E.In.	一
二、ウ	ワラウ島	Warloe E.I.	二
三、コ	カラ島	Kola E.I.	二
四、ウ	オカ島	Wokam E.I.	二
五、ワ	ンマ島 (ドボ島)	Wamma E.I. (Dobo)	三
六、コ	プロオル島	Kobroër E.I.	三
七、コ	バ島	Koba E.I. (Maikor)	四
八、ト	ウランガン島	Trangen E.I.	四
九、ベ	ナンブライ島	Penambulai E.I.	四
一〇、バ	ラカン島	Barakan E.I.	四
一一、バ	ウ島	Baun E.I.	四
一二、ウ	オルカイ島	Workai E.I.	五
一三、ツ	ムエデン諸島	Djoëhin E.In. (Jin)	五
一四、エ	ヌ島	Enu E.I.	五

参考文献

- 一、ニューギニア西部水路誌 水路部
- 二、南洋 A.R.ワレリス著 南洋協會版
内田嘉吉譯
- 三、アルウ諸島略誌 南洋資料第B八八號 南洋經濟研究所

アルウ諸島面積人口表

番號	地名	面積(平方呎)	年	人口	密度
一	アルウ諸島	八、五〇〇	一九三〇	一七、〇〇〇	二・〇 註

アルウ諸島はニューギニアの外邊、東印度群島中の最東端に位する島群で、南緯四度乃至五度、東經一三四度乃至一三五度の間に在る、一つの中央にある大島(四水路により五島に分けられる)と其の周圍に散在する幾多の小島から成つてゐる。

本諸島はニューギニア陸棚の上に位し、地盤運動によりニューギニア島より分たれたものなりと言ふ。

地影石灰臺地の形状を呈し概して低く、最高七〇米にしか達しない。大部分は乾いた岩石地である。地表は稍々起伏して時に峻峻な山丘を起し、狭隘な溪谷をなし、多くの小川の口にある濕潤な小地域の外は絶對に平地と稱すべきものはない。溪谷及び小川の各所に見える岩は珊瑚のやうな石灰岩で、柔脆なもの或は固硬なものが混在して居る。

主島を爲すコラ島、ウオカム島、コプロオル島、コバ島、トウランガン島は、全く河のやうな水路をもつて横斷され、一見一島の體を呈する。中央の島を圍む小島は其數約八〇に近く、其の大部分は東側に在り、主島を圍繞して恰も繖のやうな状態を呈する。東側の海は一體を成して、珊瑚に滿ち、アルウ貿易の主要供給品である眞珠貝、海鼠、龜甲は此處から出る。島々は大部分密林で蔽はれて居るが、トウランガン島では、アランアラン草原が之に代つてゐる。海岸濕地にはマングローブが繁茂する。

住民は體質的にはバプア人に屬し、民族誌的にはマレー人であるアルウ族で、地味は肥沃の如くであるが、未だ少ししか耕種してゐない。主として米、甘蔗、椰草、玉蜀黍及根菜類を栽培してゐる。常食の規則的部分を爲すものは野菜である。其の結果皮腐病に冒されるものが多いと言ふ。大概の村落は海岸に面し、西海岸では通常森林中に、東海岸では多くは岩礁上に設け

アルウ諸島面積人口表



アルウ諸島面積人口表

られてゐる。

本島にはサゴ椰子、椰子が夥しく成長し、野豚は到る處に徘徊して居る未開發の状態に在り、産物としては既述の眞珠貝、海鼠、龜甲を主とし、鱧、極樂鳥の捕獲があるに過ぎない。

總面積は我が四國の面積の半ばより稍と狭い。

二 ワリラウ島

五〇

アルウ諸島の最北端に位し、險惡なる水道を隔て、南はコラ島に東は一島群に對する。エダン諸島は此の島群の延長で砂石礫石花よりなる四箇の無人小島である。本島は高樹に蔽はれた小島で、北岸、北西岸及南西岸に若干の砂濱がある。南西岸の砂濱中に同名の村落がある。

本島の西側に樹木繁茂する低島のネゴベ島(一〇平方軒)及稍と高く樹木繁茂するトベ島(一〇平方軒)がある。

三 コラ島

三四〇

ワリラウ島の南方に位する樹木鬱茂せる一低島で、深水道を隔て、北はワリラウ島に對し狭き水道を隔て、南はウオカム島に對する。島内には水深多様の河流が交錯し最も重要な河畔に同名の村落を有する。東岸の大部分は多岩で二村落がある。

本島の北西端に低樹島のザアル島(一〇平方軒)がある。

本島の面積は略々伊豆大島の面積に匹敵する。

四 ウオカム島

一、八五〇

アルウ諸島の主島をなす樹木密茂する一大島で、土地は非常に低く、小流が縦横に流れて島を貫通し、可なり大きな船も通

航出来る。本島の西側には本群島の主邑ドボを有するワムマ島外ウイル島(三〇平方軒)、ワシール島(一〇平方軒)があるが、東側には主島から數哩の間に多數の島嶼が散在し、眞珠、海鼠及び龜甲の主産地をなす。東側の島群はワトウレイ島群、其の南方のカラワイア諸島に分けられる。前者は多數の岩質小島よりなり、其の内の四島に少數の住民を有し、後者は十五の無人小島である。

多くの鳥類及び獸類は本島に限られ、極樂鳥、黑色鸚鵡、大きな食火鶏は特に著名である。各村落は岩石上に建設され、東岸に四ヶ村、西岸に二ヶ村ある。

本島は我が對島の三倍の面積を有する。

五 ワンマ島(ドボ島)

四五

ウオカム島の西端に接して位する小島で、アルウ群島の主邑ドボを有し、一名ドボ島とも稱する。ドボはワムマ島の北方に突出した砂洲上に位し、其の廣さは家屋三列餘を容れるに足りるのみであるが、珊瑚礁が天然の防波堤をなし、本群島唯一の好漁地で、西季節風の襲來期には日本人、支那人、ブギス人、マカツサル人等の商人集り、人口約一、五〇〇に達し、ニューギニア及其周辺の島々の産物がマカツサル方面に移出される。但し商閉期には町の人口は數百人に減じ空屋が多い。

六 コプロオル島

一、七〇〇

ウオカム島とコバ島の間位するアルウ諸島の一大島である。島は多岩で樹木茂り且草木に蔽はれた七箇の分立岩によつて圍繞せられ、東岸に六ヶ村、西岸に二ヶ村がある。本島の東一〇軒にマリリ島、ロラ島を主とする無數の小島群があり、マリリ諸島と稱し、大部分椰子樹に蔽はれてゐる。其の二主島には夫々同名の小村落がある。

本島は我が對島の三倍の面積を有する。

アルウ諸島面積人口表

アルウ諸島面積人口表

七 コ バ 島

九五〇

コプロオル島とトウランガン島間に位する平坦で樹木の繁茂する一大島で、一名マイコル島とも稱する。東岸に一ヶ村、西岸に二ヶ村がある。

本島は佐渡より稍々大なる面積を有する。

八 トウランガン島

二、五〇〇

アルウ諸島の主體を成せる諸大島中最南端に位する。其の北部は平坦で樹木を生じてゐるが、南部にはアランアラン草原がある。南半部の海岸に十數ヶ村ある。

本島の面積は關東州の面積に匹敵する。

九 ベナンブライ島

一五〇

コプロオル島の南東方一〇軒の地點に在り、樹木密茂する一小島で、海岸は概ね砂濱である。島の北岸、南岸に夫々一村がある。

本島の面積は壹岐島の面積の一・二倍である。

一〇 バラカン島

三五

ベナンブライ島の南方に位する樹木繁茂する小島で、島の北部は多岩で同名の村落を有する。

一一 バウン島

一〇〇

コバ島とバラカン島との間にあり、村落は有せざるもの、如し。南岸は多岩で礁を沿する。

一二 ウオルカイ島

一九〇

トウランガン島の東方約一二軒に位し、可なり高い樹木に蔽はれた一小島で、南岸に三村落がある。本島は眞珠貝及海鼠の優良なる採集場である。

本島の面積は壹岐島の面積の約一・四倍である。

一三 ヅユエデン諸島

五〇

ウオルカイ島より南方に横延する礁の南縁上に於て、東西に連れた多砂の六島で、其の多くは低島をなし定住者を見ない。

一四 エヌ島

二五

アルウ諸島中最も南方に位する樹木の茂れる無人島で、狭き石花礁を圍繞して居る。

アルウ諸島面積人口表

447
76

昭和十九年六月十日 印刷
昭和十九年六月十五日 發行

紙價 金 十
特別行爲稅相當額 二
合計 金 十二
郵費 金 六

財團法人 南洋經濟研究所

編纂兼 發行人 代表者 小 西 千 比 古

印刷者 鮎 澤 二 郎

印刷所 長野縣岡谷市橋原 合名 鮎澤印刷所

發行所

東京都赤坂區表町四丁目一番地
財團法人 南洋經濟研究所出版部
振替貯金口座東京一四五八三三番

終

